

## セッション1-5

### 電子カルテ・看護支援システムの1患者におけるデータ収集ツールの作成

済生会松阪総合病院 NST 事務部<sup>1)</sup> 管理栄養課<sup>2)</sup> 薬剤部<sup>3)</sup> 看護部<sup>4)</sup> 医師<sup>5)</sup>

小林 正和<sup>1)</sup> 村林 由紀<sup>2)</sup> 加藤 はつ美<sup>2)</sup> 佐久間 隆幸<sup>3)</sup>  
川添 史<sup>3)</sup> 見並 ひとみ<sup>4)</sup> 橋本 章<sup>5)</sup> 清水 敦哉<sup>5)</sup>

【背景】当院では平成 21 年 5 月に電子カルテシステム、看護支援システムをリプレースした。某メーカーのシステムの様に一つのデータベースではなく、それぞれ独立したデータベースを持つ。そのため、システム単独ではデータを参照・更新は可能であるが両システムのデータを一度に見ることが出来ず各々のシステムを起動し画面を切り替えることで対応していた。

【目的】平成 21 年 7 月に栄養システムを始め、種々の部門システムをリプレースする打合せに入った。その際に栄養サポートチーム支援プログラムがあることを知ったが高額なため導入を見送った。また、ラウンドする際の患者 1 人に対する予習が電子カルテ・看護支援システムの両方を参照しなければいけなかったため、必要なデータを 1 画面で参照できないかと考えたからである。

【方法】まず、NST を構成するコアメンバーにヒアリングを行い、必要なデータ収集を行った。NST が入院患者をラウンドするにあたり必要な項目の洗い出しを行った。その項目は、バイタル、現在摂取している食種・主食、食事摂取量、IN・OUT、注射オーダである。このツールを起動するのにユーザがストレスを感じないように各データは過去 7 履歴とした。作成環境は WindowsXPpro、VB6.0、Oracle10g である。クライアントからサーバに対して oo4o で接続した。

【結果】当初は画面のみでデータ確認する予定であったが NST メンバーより要望がありレポート印刷機能も付加した。レポートには過去 7 履歴印字できないため決まった数のデータ格納場所をレポートに作成し最新のデータから格納した。作成期間は 1 ヶ月半。ヒアリングを開始したのが平成 21 年 8 月で完成が 10 月中旬であった。

【考察】NST が病棟のラウンドを行うための予習時間は約半分になった。また、本来の目的とは違うところで思いがけない副産物がでた。それは薬剤師の病棟で行う薬剤管理指導である。作成したツールを基に注射オーダを確認し指導を行っていた。注射薬品マスタには各薬品の成分が登録されているにもかかわらず有効活用されていないためこのツールに組み込んでおいた。薬品名に続いて総カロリー量、Na、K などである。

今後も NST と共に各自が入力したデータ資産を有効に活用し効率化が図れるようバージョンアップをしていく予定である。